

令和3年度沖縄県立石嶺児童園指定管理者制度運用委員会
(令和2年度施設管理運営に係るモニタリングの検証結果)

青少年・子ども家庭課

1 書面開催期間

令和3年9月7日から同月21日まで

※沖縄県内における新型コロナウイルス感染症の感染状況が警戒レベル第4段階にあることを考慮し書面開催とした。

2 場所

各委員の所属する勤務地等

3 関係資料等の説明等の実施

各委員に対し青少年・子ども家庭課の職員が個別に関係資料を説明したのち、上記1の期間内に各委員から意見等を受けた。

4 書面開催に対応した委員

委員 砂川 麻世 (沖縄女子短期大学 教授)

委員 富田 将孝 (富田税理士事務所 税理士)

委員 上江洲 肇 (児童養護施設愛隣園 施設長)

委員 砂川 純子 (沖縄キリスト教短期大学 非常勤講師)

委員 神谷 眞行 (沖縄県ファミリーホーム連絡協議会 会長)

5 検証事項

令和2年度沖縄県立石嶺児童園(児童養護施設)指定管理者モニタリングシートの検証

6 検証内容

- (1) 指定管理者及び県が実施するモニタリングは適切に行われているか。
- (2) 指定管理者に対する県の指導・助言は適切に行われているか。
- (3) 利用者アンケートや苦情に対する指定管理者や県の対応は適切に行われているか。

7 検証方法

- (1) 所管課によるモニタリング実施結果の報告
- (2) 意見等の聴取 (各委員からの指摘・意見等に対し所管課及び指定管理者から回答)

8 意見等の概要

- モニタリングシートのうち、修繕一覧表の合計額と資金収支計算書の修繕費の額の差異につき説明されたい。また、予算のマイナス執行が散見されるため注意を要する。

〔回答等〕

ご指摘を踏まえ、再確認しましたところ、石嶺児童園において作成した令和2年度の年次報告書の修繕一覧表の集計に誤り(未計上分あり)があることが判明したため、同様式を差し替え、同報告書とモニタリングにおける数値を一致させた。

ご指摘を踏まえ予算のマイナス執行については指定管理者に対し指導等を行う。

- 一般的に措置費収入の30%以上の当期末支払資金残高を繰り越すと高額繰越に該当することになる。今年度の指定管理料(措置費)は336百万円で、その30%は約99百万円である。当期支払資金残高は16百万円でこれが毎年続けば高額繰越事由に当

たる。このような場合の対応はどうか説明されたい。

〔回答等〕

令和2年度に繰越金が生じた理由は、厚生労働省が令和3年3月10日付け厚生労働事務次官通知（児童福祉法による児童入所施設措置費等国庫負担金について）により措置費の単価改定を行ったことから、県において遡及して単価改定を行い、年度末に追加の指定管理料（措置費）の支出が生じたことによるものである。

なお、沖縄県と指定管理者との間の沖縄県立石嶺児童園の管理運営に関する基本協定書第31条の規定により、指定管理期間満了時において管理運営経費に余剰があった場合は、沖縄県に返還することが定められているところ。

- 当モニタリングには記載されていないが、石嶺児童園は施設内虐待防止等を目指し、沖縄県児童養護協議会における沖縄県版権利擁護ガイドライン「より良い支援の実現に向けて」の策定に積極的に参画し、令和2年度の完成に寄与した。また、その人権擁護のための研修「被措置児童等の虐待防止及び権利擁護に関するオンライン研修」にも積極的に参加し、職員の質の向上を図ったことも評価できると思われる。コロナ禍において、行事、家族との交流などに規制をかけざるを得ない状況下において、園内行事の工夫、ホーム単位での児童との取組など、児童のストレス軽減や担当職員との関係性の強化に繋がる内容が児童の意見としてアンケートにプラスに反映されていることは大変評価できることと思われる。

〔回答等〕

委員の所見であるため特に回答なし。

- 児童養護施設は、様々な背景を抱える子どもたちの集団生活の場であるためリスクがあるが見守るための共通の基準はあるか。コロナ禍の影響を受けて、園内を中心に行事を実施している。レクリエーションが充実することで情緒の安定や運動不足の解消等、職員や子ども達同士の交流ができ大変素晴らしいと考える。子ども達の満足度調査を実施されてもよいかと思うがいかがか。

〔回答等〕

児童に適切な支援を行うためには、子どもの権利擁護を基本として、当該児童の特性や現状に至る背景等を理解し対応する必要がある。このようなことから、沖縄県社会福祉協議会と児童養護施設とが協働で「沖縄県版権利擁護ガイドライン」を作成し令和2年3月には合同研修も実施した。同ガイドライン精神を踏まえ、児童の養護、支援に取り組んでいる。

石嶺児童園では、通常は、園庭や体育館、グラウンドでスポーツやレクなど行っているが、令和2年度は、新型コロナウイルスの感染防止対策のため、学校が休校となり、帰省もできなくなるなど、制限の多い生活が続いた。しかしながら、そのような中であっても、子どもたちの要望に応じて、グラウンド内で年少児のためのプール遊びや球技大会等、小さな行事を行うなど取り組んできたところ。これらの行事に関するアンケート等は未実施であることから、何らかの方法で子どもたちのレスポンスを得られるよう検討したい。

- 入所児童アンケート調査に関して子ども達から改善に向けた提案や子ども達自身の行動変容についても書いてもらおうと次に繋がると考える。

〔回答等〕

令和2年度は、新型コロナウイルスの感染防止対策のため、学校が休校となり、外出も制限され、多くの行事も中止となるなど、制限の多い生活となった。その結果、多くの日々を職員と児童が終日寮で生活するという極めて特殊な環境下となった。このことは制限の多い生活を余儀なくされることでもあることから、子ども達の不満がそのままアンケートの結果に反映されるものと予想していたが、実際にはA評価も増えているなど予想外の結果が得られる項目もあった。これについては、児童と十分な時間を確保することで職員と児童の関わりが深まったことなどが影響しているのではないかと考えているところ。また、令和2年度は適切な感染防止対策を講じられた結果、園内感染はゼロにすることができた。

委員からのご意見を受け、何らかの方法で子どもたちの提案や意見を拾い上げ、児童のケアの充実という施設側からの視点だけでなく、当該提案等に子どもたち自身が積極的に関わり、どのように実現できるのかを考えてもらうなど、自己実現や子どもたちのリーダー育成の観点ともつながりをもたせる工夫が必要であると考えているところ。